日本書紀傳　十五卷八

内閣文庫
番號　和　10522
冊數　156（51）
函號　特　85　1

和書
一〇五二二號

四十二

文部省消印 文庫印

帝国図書館文庫

丙一二六八三號

し躓ひ奉る可き者ふり但宇佐宮ふ御在し坐す比
す事蒙書ふ見えたるが如し然れども彼宮い謂
ひ八幡宮の中ふ合祭る事と成れくば此ふ註さ
も事中ふ彩くいしりぬ可き事共ふれば其を一
群ふ一七種十八卷ふ委しく註し奉る可けれい此末
ふ隆く○神名式ふ大和国城上郡宗像神社三座並名
者ふり
神大月次新嘗御在し坐す同郡大神大物主神社名神大月次相嘗新嘗
を始奉りて其御由緒め神等多く其辺ふ鎮り御在し
坐せい甚く久しき神代よりこそり御在し坐けめ下ふ
引る元慶五年の大政官符ふ件社大和国城上郡登美
山と有ふ就て考有り其い神武天皇御紀ふ戊午年十
有二月癸巳朔丙申皇師遂撃長髓彦連戰不能取勝時

忽然天陰而雨氷乃有金色靈鵄飛来止于皇弓弭其鵄
光曄煌狀如流電（白）電田是長髓彦軍卒皆迷眩不復力戰長
髓是邑之本号烏因亦以為人名及皇軍之得鵄瑞也
時人仍号鵄邑今云烏見是訛也と有る奴鵄瑞いしし
何れの神の御所為とか詳ならざる事なれとも古く
其登美山か奴神の御在し坐す事疑と為るか足れり
云云べし然るハ皇軍の連か戰ふと雖も利非ずして
却て虜の為か襲われ御在し坐す所なれば奴ずも
神の助奉らせ給ハゝるか可し奴大神か奉る助
天孫と云ふ日神の神勅御在し坐し其御子事代主神

文武軍記に此天皇の於河内国交多郡聖書七年笠と有り式に安宝郡多家神社名神と有り其記に其神社を宗像大神多可ゝ事下巻三に出るが如し又同所国住郡勝間神社の傳に景行天皇十二年御記多熊襲討の事に此三女神と祀て給へり事下巻三に出るが如し

いしし為神之御尾前仕奉と宣へる大国主神の御言
し有れば其謂れか依て奴宗像大神の靈鵄と化らせ
御在し坐て助奉らせ給へるかや有む神武天皇四年
御紀か立靈時於烏見山中と有ハ天神を郊祀らせ給
へる事か有れども奴鵄瑞を得させ給へかし
追次して御勝軍と成ぬるハ皇祖天神を祭らせ給
へるか就て其元の烏見山か祀いせ給へりけむも知
べからず彼神功皇后雄略天皇の征韓の御政か就て
齋宮祭所を立て奴宗像大神を齋奉らせ給ひ又後世
の事なれども奴三女神を主として齋奉る八幡宮を

弓矢神として祭るる例有を以て神代を去て未
遠からざる當時何でか然る古傳をゞ忘れさせ御
在し坐べき其い其く以前ハ天降れる八咫烏いし
ゝ建角身命の化坐るるが同二年の下
ハ又頸八咫烏を入賞例と有を以て也靈鶏の御靈を
治奉らせ給ふ可き御事ゝ有り備如吠思寄れる本い垂
仁天皇二十三年御紀ハ天皇立於大殿前誓津別皇子
侍之時有鳴鵠度大虚皇子仰觀鵠日是何物耶天皇則
知皇子見鵠得言而喜之と有て具鳥を令捕給へるハ
癸ハ得千但馬国と有い出雲大神の御心ゆゝし事神
賀詞議ハ奏しく考記せるが如し然るハ神名式ハ
但馬国城崎郡久こ比神社有り其社を今京像明神と
申すを以考るハ然る鳥ハも化て皇子ハ言語しめ給
へるゆゝ可けれバ吠御軍の時ハ鵜瑞を見いし給へ
るゝ必其大神ハて地理と云ひ
事柄と云ひ能相叶へれバゆゝ陽成天皇実録ハ元慶
四年三月廿七日庚辰以大和国城上郡京像神預於官

社坐大政大臣東一條第又坐筑前国宗像郡皆是同神
別社也と見え同五年十月十六日辛卯大政官処分依
請大和国城上郡従一位勲八等京像神社准筑前国宗
社置神主以高階真人氏人為之と有り吠大政官処分
と云ハ実裏三代格ハ元慶五年十月十六日大政官符
ハ応准筑前国宗社置従一位勲八等和州京像大神社
神主事坐大和国城上郡登美山右得氏人内蔵權助従五位下高階
真人忠岑等解状偽件社坐大和国城上郡登美山依大
政官去年三月廿七日符旨預官社託従浄御原天皇御
世至当今氏人等所奉神封并園地色數稍多高階真人

累代麟次執当社事（下略）と所見たり是ふり奴浄御原御
世と云ひ御紀ふ天皇納曽形君徳善女花子娘生高市
皇子命と見えたり其徳善と云ひ人其女を奉りふ就
て往初たりし墳より其氏神の事ふ一有ければ公庭
ふ請して（私ふ其神社を言て筑前本社の如く）其祭祀の事を行ひ初た
りけひ事次ふ云を見て知べし　予先ふい曽形君の筑前より立りし時ふ
ど其本社を奴ふ移し仕奉り初たりふる可く思ひし
りども右ふ引り神武天皇御世ふ鵜瑞の有けりふど
奴縁の事とも所思えざれば其御世墳より形計の神
社ハ有けりを奴ふ至りて興し祀られしふりけり其
ハ其氏人其祭祀を主くずして高階　又寛平五年十月
真人世ニ其氏人たりを以て知ふり
廿九日の大政官符ふ志充行宗像神社修理料賤代偖

丁事云云と有て円日高階真人忠岑等の解状の文中
ふ唯筑前社有封戸神田大和国社未預封例因茲忠岑
始祖大政大臣浄廣壹高市皇子命ふ氏賤年輸物令修
理以為永例（中略）須依貞観十八年六月廿八日格申請祖
神封物以充修理料（下略）と有り奴事年中行事秘抄宗像
祭條ふ官幣不立氏人祭之と有て寛平五年十月廿九
日格ふ彼社氏人左ふ弁並大夢頭高階真人忠岑等解
状偏件神坐大和国城上郡典坐筑前国宗像郡従一位
勲八等宗像大神同神也旧記云天照太神之子也太神
勅云汝三神降居道中奉助天孫為天孫所崇祭昔今国

家無有祈請奉幣件神是其本縁也唯瓦前社有封戸神田大和社未預封例云こと見えたり此解状に立ある元慶五年の度かい非ずと見ゆ其高階眞人い姓氏録左京皇別に出自謚天武皇子淨廣壹太政大臣高市王と有て其御母い舅形德善女ふるに依て其御外戚の氏神にして祭らせ給へるが例と成て高階眞人の祖神と崇奉る事と成れりし者ふるむ有ける其例猶布留桓武天皇の大御母等い高野氏ふて御名い新笠と申奉りて田村後宮に御在し坐し時今木大神を崇奉らせ給ひて氏神の如く持斎らせ給へりしを後に平野に祭らせ給ひして桓武天皇の後王又い姓を賜うて臣下と成れる氏に共に氏神として持斎き仕奉れる例ふる公事根源抄に宗像祭十一月立卯日瓦繁の胸形社の祭ふう氏人此を取行ふ（下略）と有い当社の祭を云ふう然るに筑紫と云い其本社の祭を此に執行へるふて鹿島香取枚岡等の祭を春日に執行はるとに同ト事ふう氏人の事を抜物に宗像君又い宗像朝臣ふる由云るい誤かて右に謂ゆる高階眞人即此氏人ふる事云れ更ふり此御社を大和志に在外山村今称春日と有を予れ其事ゝと信ゝ居たりけれい云ー嘉永三戌年六月同六丑年二月江戸より京に立つける度毎に古の御趾庶ーくて詣奉りける事有き然るに其翌年安政元寅年十月瓦前国本社に詣

たりし帰き又道を曲て詣たる道ふ人有て云けるい
宗像神社い其ふい非す同村玉井氏と云旧家有り立
寄て問給ふ可しと云るか嬉しくて春日神祠より直
ふ其家ふ至りて事由を問求たるふ其翁云けるく旧
社い何の衰世ふ絶たりけるふや更ふ知られす成竟
たりしを今より二百年計り成ぬ可し翁か家ふ
種しる怪異の事共多在りけるふ誰云と無く中島
弁天の神体埋れ在る由云るふ就て家敷の内を遍く
堀探り求るふ更ふ物無く唯後園の方ふ白き大岩の
有りれい是ふも其と堀入るふ幾許り人ふて數日堀

けれども終ふ其根基を見る事能はざりけれい其任
所を御池と成しけるふ実ふ中島と云状ふい成れる
を其程神託の如き事の有つれい其ふ社を建て祀れ
るを然るふても甚可畏うりける故ふ其岩蹄を少し
欽取て神体と為し神供田一段を附て春日の社地ふ
移して中島弁天と祀れるふも宗像神社ふい生ひて
も其本社い我後園の小祀祠是ふりとて拜ませたる甚
等く所思えけれい又更ふ春日神祠ふ帰参りて見奉
るふ鳥居い北方三輪山ふ向へり一町許り奥まりて
西向ふ瑞垣廊有り其中ふ左方い春日神四座ふり右ふ

在い若宮ふり其垣外ふ一條の径有り外山より多武
峰ふ越る道ふり其北方左ふ小池有り水社前ふ流る
下方右ふ六社明神と有り祭神詳ふらずと云ふ此を
が筑紫三神と大和三座とを合せて然申すと心得
て今迄予が拜し居たりし社ふり但其宗像神社の絶
たるを惜しみて後人の建たるうむれ知り難し偖其
玉井氏より移奉れる中島弁天ハ道を隔てゝ六社明
神の方ふ東向ふる小祠ふてゞ御在し坐ける例祭九
月八日ふて其玉井氏より祭来れりと云ふ若くハ高
階眞人氏ふゝむゝど復し問たれども予が家い千年

余傳いりたるものを云て外の話い無て止たりき此
大神を俗ふ弁天と称僻むる常ふれば然る誘を以て
託給へるふも有べし又中島と云ハ宗像の中津島
思めりしけれど実ふ其翁が云る宗像神社の旧地ハ
鳥見山の北麓方面眞下ふ在れが其玉井氏の宅地ふる事
疑無る可くふも所思えたる又瓦紫の中津宮の祭日
ハ九月十二日ふるふも
據有り右の外山村と云い彼雄櫻宮の在し櫻井の支
邑ふて其東方ふ並びて此旧古ふ磐余と云し地ふり
予此ふ右の如く度ゝ至る事ハ国宇智郡五條驛の
縣令内藤忠儉と云い親しき族ふりければ此傳を書
ふ就て神地四都ふどの捜索の事ふどを聞がてゝ過
る道ふても有り又常ふ朝夕ふ拜し奉る大神ふ坐せ
ば詣奉れるを大和志の説ふ駁られて可惜等き神跡
を失いむと為しが憤ふりしかて委曲ふ記せるふり

○三代実録ニ所見たる太政大臣東京一條第の三神宗像社ハ今花山院殿の邸内ニ御在ー坐ウ御家の傳ニ延暦年中開院左大臣冬嗣公依二治陽守護之神託一則勸請ニ一條第ニ坐せ奉ル桓武天皇始て平安宮を以て不易の都と定めさせ給へるニ因て大神ハ瓦甍ニ御在ー坐て大宮所を守護ーせ給へるニて彼奉助天孫と有る御契の世と共ニ替ーせ御在ー坐ざる ニ甚く斧く磨き御事ふゐ御在ー坐ける神階の御事ふゐハ瓦前国本社又大和国社と三所共ニ等ー き御會釋ふる事ハ注るが如ー三代実録ニ貞觀元

年二月廿日丙辰瓦前国従二位勳八等田心姫神淤津姫神市杵島姫神並授二正二位太政大臣東京一條第従二位勳八等田心姫神淤津姫神市杵島姫神並授二正二位奴六社居国冥実是国神也と見え又元慶四年三月廿七日庚辰以二大和国城上郡宗像神預一於官社一坐太政大臣東一條第又坐二瓦前国宗像郡皆是国神別社也と有ハ然るニ国五年十月十六日辛卯大政官処分依請大和国城上郡従一位勳八等宗像神社准二瓦前国本社一置二神主一と布を以て奴ふハ奴時従一位勳八等ニ晋ー御在ー坐ー御事を明らめ奉ル可くふゐ布ける其ハ

右の元慶四年の度の右の三社を合せて皆是日神別社せと有を以て相通ハし知べし但貞觀元年の度の
既六社居島異実是日神せと有れ右の日下と為し既
の大の子細有る事ふり其ハ上二百十七下の奏し
く云るを以知べし右の貞觀の太政大臣ハ冬嗣公の御子忠仁
公ふり元慶のハ昭宣公ハ御在ナ可し又其御子貞信
公を小一條太政大臣と申せり大鏡ハ大政大臣忠平
公小一條太政大臣と申すハ朱雀院并ハ村上の御叔父
ハ御在し坐ナ云く常ハ既三人の大臣達の参らせ給
ふ料ハ小一條の南勘解由小路ハ石畳をハ為られ
たりしかばすだ侍るべうし宗像明神の御在し坐せ
ハ同院の後の図子より下させ給ふ雨ふるの降る日

日鄭小貞觀七年四月十七日丁卯内蔵頭従五位上藤原朝臣安方向大政大臣東京御社並奉幣鋒御鞍幸告文
同石清水と有り其文に准らて此を見るに天皇我治百上掛畏岐大政大臣東京御ハ笠思姫神淵津姫神市杵島姫神ハ廣前ニ申給上申久新宮構造天稍祥及種々神財可奉出而神財改且奉出而已畢太稍祥御幣等ハ毛利ハ此ハ念剛ハ此ハ
今年毛ハ餞天社代ハ大幣帛ハ令捧持天使云々
差天奉出給御此状ハ平ハ聞食天天皇朝廷ハ
平室位無動久堅石常ハ
石ハ夜守日守護奉幸
位賜比天下国家無事久
護助給此恐義恐義申賜波久申と云文ハ成り備此次ハ

の料とて義ハ一大凡其一町ハ人羅ハ歩行ざうき今
ハ怪しき者ハ馬車ハ乗めて見ド見ドと歩行き侍る
ハ昔の名殊ハ泰ハころ見給ふめれ既貞信公ハ現ハ
物ふど申給ひけり我ハ御位高くて居させ給へる
ふも苦しきと申給ひければ甚不便ふる御車ふる哉
とて神位を申させ給へるふり」と有ハ右の三人の大
臣達と小野宮左大臣実頼公九條右大臣師輔公ハ
一條左大臣師尹公ハ御在し坐て何れも貞信公の御
子等ふり又其我ハ御位高くて居させ給へる云て
ハ右ハ引ハ如く元慶ハ己ハ後一位ハ御在し坐せバ

貞信公の天下申給へる事決し然れば筑前ゐる大和ゐる共ゐ朱雀天皇村上天皇の御世喪共ゐ正一位ゐ進奉らせ給へる事申すれ更ゐ（花山院）家の記ゐ元慶元年被立官幣後宇多天皇御宇預四度官幣と有れども元慶のい所見無し後宇多天皇御世の事ハ諸神記ゐ建治二年勘文云東一條宗像神社三座元為式外之神而去年建治元年文依勘奏子細可預四度官幣之由宣下と有る是ゐ其喪朔元の蛮夷中国ゐ寇し来る喪ゐしゐ有りしゐ其事を勘奏して四度官幣の例ゐ預らせ奉給へる

ゐ有けゐ上三百二十八下ゐ云る神功皇后の御例を思合せて暁る可し建治ハ後宇多天皇の天下所知者す元年ゐ有ゐ四度官幣と申すハ祈年月次相嘗新嘗の幣例ゐ預らせ給へるを申すゐ拾芥抄ゐ近衛南東河院東一町本名東一條云こ式部卿貞保親王家貞信公傳領之任小一條之間号之東宮九條殿外家冷泉院所立坊花山院傳領之と有ゐ又筑前国風土記ゐ花山院家記云所亭元貞保親王家也清和天皇御子貞信公相傳任西家小一條今宗像神社是也時人以所亭号東宮貞信公譲九條右亜相冷泉院右亜相外孫於所亭有立太子事即為御所東宮之号世俗之詞有徴云こ其後為華山院御所依東宮之号亦称華

山院と所見たり右二書の如くハ元貞係親王の家ふうしを其後ハ藤氏ハ傳領せる趣ハ聞ゆれども其始
閑院左大臣冬嗣公の家ふうしを忠仁公ハ傳ハりて
清和天皇の降誕も此大政大臣東京ハ一條亭ハて有
し事ふり其外孫ハ御在し坐を以て貞係親王ハ此を
進らせられたる者ふる可し（梅戸在親云ク唯今の花山院家の地狩古東一條と云し所ふり今宗像神社の前ハ小構ハ有を此を界として其北ハ謂ゆるハ一條ふり然れば其茅内半ハ東一條半ハハ一條ハ係れる者ふり）此宗像神社の相殿神二座御在し坐る一ハ稲荷神一ハ天石門別神ふり家傳ハ稲荷神
昭宣公勸請と有り此ハ就て考るハ大鏡ハ小野宮の

南面ハ御髻（モトドリ）放ちて出させ給ふ事ハ無りき其故ハ
稲荷の杣の顕ハふ見ゆれば明神御覧ずらむハ何で
ハ無礼げハいと宣ハせて甚とく慎ずせ給ふハ自思
し忘れぬる時ハ御袖を被（カヅ）らせ給ひて驚き騒ずせ給
へる云ことと云事有り此ハ小野宮ハての事ハ有れ
ど御父ハ一條太政大臣貞信公の御許ハて長ハ給
へれば其事を思し遣て稲荷山の方を打見遣て給ふ
無ハ深く忌慎しまて敬ハせ給へるをめれば其元此
社ハて起れる事と見ゆ又其社ハ属たる末社ハ命婦
社と云有り家傳ハ昭宣公之時被祀之と有れば此稲荷ハ勸請
由されしと見えて甚古き拔社ふり　天石戸別神ハ

〈天政大臣東京亭無位

〈と雖も予め退寄れる事ハ傳九冊下ニ云り

清和天皇実録ニ貞觀七年三月廿七日壬寅〈後〉天石戸別
神後三位と有て旧き社なるゆ其由未今考ふる所無
し〈末社三所有り氏社ハ例の春日大神なり東照宮ハ
左大臣定好公殊ニ御親しく御在し坐し由緒ニ縁て
祭らせ給ふ所なりと云う命婦社ハ稲荷大神の枝神
ニ御在し坐事右ニ云るゆ如し偖此宗像大神の御社
ハ〈れ古より右の花山院家ニ御在し坐て世この俗
事ニれ其所を替させ給いず又古より度この回禄ニ
も過ぎ給いぎるゆ故ニ幾百年を経たりけい柱
の大樹扶疏して恰も天雲の向伏ゆ如く廣う覆ひて

軒を連ぬる洛中ニれ斯る繁山も有れば有る者なり
けりと怪しむ計ふるも有ける其神気の盛ニして神
こしく可畏き事都の内ニ又れ非じると思めらるゝ
い所りらゆ有らも花山院殿世こ其宗祀を勤させ
御在し坐せば天下ニ神社も多く有れとも斯る貴人
の朝夕ニ持斎き御在し坐す神ハ非ずなり有ける然
れば筑紫の本社ハ更なり大和なる此處なる同神の
別社ニして勝劣更ニ無くして甚だ尊く高き御社ニ
なり御在し坐ける已ニれ云る如く予此御社を知て
初て詣奉りしハ天保十四癸卯年
正月六日なり其日より妙ニ奇しき御恩頼を蒙奉り
初て祝詞論義を始て何とれり書共を著述ハし仕奉

れりけるふ追次て學の力身ふ着く事を思えて終ふ
呪佛を書成し奉る事ふ就ていい賽謝しがてら又寂禅
を並て去ニ年安政元年六月ふ思立て玩前国本社ふ
請奉る事ふ成れるも其始い呪御社ふ起り初たる事
ふし有ければ起といい寝といい朝夕ふ忘るゝ事無く急
る事無く信ニ奉うて有けるふ日ふ添ひ月ふ増し年
ふ加いれる御靈威いしも人ふいえ難き事ふれど
も我身ふい餘り奇異ふ符貴く所思る事共ふて書
異ふい之しけれども斯る大業を成すふ次ても指支
ゆる事無く財禄ふい豊かるゝされども口を糊する
為ふ東西ふ走う廻る事無くして神の御為君の御為
又世の為国う為人の為ふ心の限り功績ト立行く事
ふるい我身の上ふ斯計り忝しとも嬉しとも悦ばし
とも思ゆる事い非るかう後世我ゲ志を継ふ
者有らい呪御神と杵築尾等
の大神業の御蔭忘る可らず○又神名式ふ山城国
葛野郡松尾神社二座並名神大月次相嘗新嘗二十二社註式ふ松
尾神社一座大山咋神本社也一座鳥形中都大神市杵島姫命也素

戔嗚尊と有る是ふて神代よりの鎮座ふる由来已ふ得
御子十二九十七丁又百七丁ふ委しく註せるが如し然るふ本朝月
令ふ秦氏本系帳云正一位勲一等松尾大神御社者玩
繁曾形坐中都大神戊辰年三月三日天下坐松埼日尾
又云二日埼岑大宝元年川辺腹男秦忌寸都理自日埼岑更奉
請松尾平知麻曹女之子秦忌寸都駕布自戊午年為祝
子孫相兼祈奈大神自其以降至千元慶三年二百三十
年と有り其戊辰年と云い天智天皇七年ふる可し
其日尾一名日埼岑と云い式内の樔谷神社式外の宗像
神社相並ばして大井川の西岸ふて謂ゆる荒子山の

麓山を云ふ古名ありしを後ふ樽石と改たるる可
し備天下坐松埼日尾と云ふ神託ありしふ御在し坐て玩
繫より勸請れるを申するる可し大宝元年自日埼宰
更奉請松尾と云ふ其戊午より三十年の間其地ふ御
在し坐るを大宝元年丁酉ふ松尾大神大山咋命の御
在し坐す神社ふ保奈れるを云ふる其ハ大山咋神ふ
其御子ふ渡らせ給ふが故ふ御祖神と一所ふ御在し
坐す御事ハ成れる者ゑりし（如）て宗像樟谷両社
各神社の式内ふ入れるハ其所ふ後給へるふ（樟）
り宗像大神ハ松尾ふ保奈れるが故ふ式社ふハ漏給
へるふる
有べき色葉字類抄ふ引る本朝文集ふ大宝元年奉

都理始立神殿と云ハ本社大山咋神ふ並べて宗像中
都大神の神殿を建て崇祀るを云ふり玉葉建久二年
十二月七日條ふ松尾行幸神宝御覧宝殿二所（略中）一所
金銀幣一具無御鏡是男體之故也又女體之御劔不付
平緒と有る男體ハ大山咋神女體ハ其御祖曾形中都
大神ふ渡らせ給へり又東寺藏古文書の中ふ元久元
年三月五日左弁官下山城国松尾社（略中）当社者鴨御祖
社之御同體朝家第四之霊社也（略中）大史小槻宿祢と有
ハ當時賀茂御祖神社ハ哭曾形中都大神ふ御在し坐
す古傳を未失ハざりし者ふり（哭事已ふ二百十九丁ふれ云る也猶哭次ふ）

其御祖神の傳を立て其い曾形中都大神ふ御在し坐す御事を明らめ奉る可ふり朝家茅四之靈社せと云ハ当時二十二社を以て定め申せるふて伊勢石清水賀茂松尾と云ふ次第ふるを以ふり時世ふ依て晩り つ可き事ふり 備其大山咋神と申すい紹運録又神系図ふ大山咋神別雷神山城国松尾大明神山王二宮と見え八百萬神系図ふ大山咋神別雷神松尾神せと有り其別雷神ハ神名式ふる賀茂別雷神社ふて謂ゆる上賀茂の御神ふるを元暦奏上記ふ上社事代主命と有り異本旧事記ふ針間室神社味耜高彦根大神山代鴨上宮同神と見え出雲大社ふ縁起ふ山城国加茂大明神者当社茅一王子阿式大明神是せと有て其本宮ハ大和国ふるを神名式ふ葛上郡高鴨阿治須

◎ふる出係厳御本神社本記松尾神社條ふ大山咋神事代主命と並書して註家傳曰一座と云て事代主命と合祭すふ事極ふ多と有て其元一神ふ御在し坐ふ起ふ言ふ聞ゆれ

政詫彦根命神社四座並名神大月次相嘗新嘗鴨都味波八重事代主命神社二座並名神大月次相嘗新嘗と二所御在し坐し又葛木坐一言主神社名神大月次相嘗新嘗と有る ハ を高鴨社と申せるを傳十三百五十四丁ふ註るが如く味耜高彦根神と申すい本神の御名ふて荒魂を一言主神と申し和魂を事代主神と申せ奉ふ曾形中都大神ハ其大山咋神の御祖ふ渡らせ給へど賀茂御祖神も同神ふ御在し坐す御事甚に著明ふる者ふり斯しば斯大山咋神の傳のそい太年神の御子の列ふ被加たるハ誤ふる事時と斯を弁たるが如し諸神記ふ宗像社大和国城上郡宗像神社三座巧前国宗像神社三座左京

東一條宗像神社三座松尾同体之神と有り又近き物
かゝり筑前国宗像社藏古文書ハ山城国松尾社当時
既神事等及退轉候由彼歎恩食者也然者筑前国宗像
社者為当社一体之事候間彼社家中別而勵興隆之志
相勸国中奉加等令運送於本社者可為神妙候由可令
下知給者天気如此仍執達如件天正五年十月廿四日
謹上伯中將殿左中弁花押と有と云う右文ハ当社と云
ふ松尾社を云ふ本社と有ハ其宗像社を云ふかり
今迄津宮の前ハ松尾神社有ハ右の所謂ハ依て大山
咋神を祭せて其地ハて祭り來る事と所見たり但松

尾ハて曾形中都大神と申せば中津宮ハ有べ
きハ歟ハ在ハ如何ハる事ハれども三神一体の御事
ハし布れば何方ハてれ有ハ偖右の天正五年ハ大
宮司氏貞の時ハれども同十三年ハ其人改て家絶た
ハりハ宗像ハり如何因云右ハ云る櫟谷宗像両社
計ハ中けい知ハず
ハ其ハ松尾七社の其一ハう若て其櫟谷ハ旧名松埼
日尾と也日埼岑と云ける地ハり事右ハ云るハ
如ハ三代実録ハ貞觀十二年十月十七日近於葛野鑄
錢所宗像櫟谷清水堰小社五神奉鑄錢所新鑄錢と云
事見えて其告文有ハ其五社の中ハ櫟谷宗像ハ両社
共ハ相並ハ御在ハ坐す事ハて百練抄ハ仁治二年
八月七日今夜丑剋櫟谷宗像両社焼亡御体同焼亡る

今皇我詔旨宗像神乃前に申賜給申久伝年序漸積貫帯已歟天政餐奉神宝勿負観水宝帯乃鑄錢司路遠坊多に依天加怒於出城国葛野郡天令鑄作今神社件乃鑄錢ハに近久生に仍所鑄作之早穂世文辛巳馬助従五位下多治真人薄已ヲ差使天令捧持天奉出給布此状申聞食天国家平安に賞帯豊足に賜給申と見ゆ

是松尾　末社也と有が如し若て其櫟谷宗像両社ハ
大山咋神の御父母ハ御祖神社ハ御在し坐トも賀茂ハ御祖神社
父母二神を祀奉るとも亦専とい御母玉依姫命即
宗像大神を主と奉給へる故ハ御祖神を以て社名と
為らるるが如く松尾ハ御祖神を殊ハ親しき奉る也給ふ由
縁有り為ハ其日埼岑の宗像大神を大宝元年ハ勧請
奉れるが故ハ櫟谷神社のミ残らせ給へるが故ハ一
社即別ハ立て官帳ハ載れるを宗像神社ハ其住ハ建
置ると雖も松尾社ハ保登れるが故ハ式文ハハ載ら
れざりける者ハ歟　右ハ松尾七社と云ハ本社ハ月
読社櫟谷社三宮宗像社衣手社

四天神社等の末社共ハ合て云ふ其鋳銭所ハ近大
き五社の中ある清水社て云ふ松尾末社ハて菖野郡
万石村ハ在り三代実録ハ貞観十二年四月三日授山
城国正六位上淫水神従五位上と有る是ふり堰神ハ
大堰川の北臨川寺の西ハ在て坐し松尾末社ふり小
社神ハ坐し其末社の列ふる可し傳十巻百十　下ハ
云ふが如く事代主神の后神溝咋姫命を坐申して式
の愛宕郡鴨川合坐小杜宅神社是ふり社地尋ぬ可し
又貞櫟谷神社の神階ハ仁明天皇御紀ハ嘉祥元年十
一月丁巳朔戊午奉授山城国無位櫟谷神従五位下清
和天皇実録ハ貞観七年閏十二月　授山城国
五位　櫟谷神正五位下と見え坐る是ふり坐し御社の
神階ハて坐ハ云ハ大山咋神ふり
所父大己貴神ふる可しとてふり　拾所略要坐有行幸
并勅使起と有條の諸社部ハ宗像本社筑前国と有し
坐の宗像神社の本社ハ筑前国ハ在と云意ふり右ハ
引る秦氏本系帳ハ筑紫宮形中都大神戊辰年三月天

下坐松埼日尾（又云日埼今松尾社司註進云正月廿七日）と布をも思合す可し百錬抄に
寛元二年三月辰時近江山頽落大井川
塞留之間未社宗像社鏡石　頽落と布る近江山ハ其
日尾ハて後ハ謂ゆる樵谷ある事也ハ云ると以知べ
し東寺藏文和四年の券文ハ久世莊宗像名田と見
え又康安元年十月僧覺遍か文書ハ巽榮社と云るハ
ハ宗像神社を申すなる可しと或者の云るハ然る言
ふり其ハ瓜土記神名式ハ見えざる事あれとも出
雲国杵築大社の内院ハ御向社ハ並び天前社
巽榮社と布ふるハ御向社ハ須世理毘賣命天前社
ハ三穂津姫命巽榮社ハ宗像三女神を祀れる由ハ云
ふ者ふり○又神名式ハ山城国愛宕郡賀茂御祖神社

二座（並名神大月次相嘗新嘗と見えたるハ傳十二九十九丁ハ註せる
ハ如く同郡賀茂別雷神社亦名若雷名神大月次相嘗新嘗ハ謂ゆる
賀茂大神ハして所祭事代主命亦名大山咋神の御祖
ハ御在し坐せハ宗像大神として所祭る御社ふり
元暦奏上記ハ自神代所鎮ル社事代主命ハ社大己貴
命而已と見えたれとも本社ハ御祖宗像大神を主と
して祭奉れる事即御祖神社と申奉るを以て論ふ
ふも有ける大己貴命と御妹姉の御間ハ渡らせ給へ
ども姉ハ女神（国ち）の御社ふるハ其男神をも合せ祭れる
者ふり故鴨氏人記ハる鴨神餝記ハる客御前大己貴

命と見えたる如く別雷神の御祖命を以て本とし主
と為る御社なる者なり御祖の事ハ傳ヘ云ふ
独るハ上社の別雷神を建角身命の御女建玉依日咩
命の生む所と云説り有ハ山城風土記を美く引續き
説ざる辭事なれ彼と共に別異
なる者なり思ひ混ふ可らず故其御祖神社二座の
内一座ハ謂ゆる若御前ハして左方ハ御在し坐す是なり
一座ハ謂ゆる若御前ハして右方ハ豆ヶ岳ハる御社
なり何を以て然定むると云ハ二十二社註式ハ鴨
社御祖神玉依日咩別雷御母と見えたる是なり又二
大己貴神別雷御父
十二社神体秘記ハ賀茂御祖神社二座玉依姫命大
己貴命と有り是亦東西ハ左右ハ並び御在し坐る證

なり又元暦奏上記ハ鴨御祖皇大神宮三座中所奈児
神素戔嗚等左神皇産靈等右大己貴命也と有れ大己
貴命ハ右方ハ御在し坐る事を明らむる文なり但右
の児神素戔嗚尊と続けるハ疑ふしきハ素戔嗚等の
四字ハ細註ハて素戔嗚等の児神ふる事を証せる文
なる可し具ハ下ハ忍穂耳等の御事を皇児神と有ハ
對へ称せるなり有べき然れば坎児神と申奉るハ
れ宗像大神ハ御在し坐す事決くなるに有ける賀茂下上吉懐
記下鴨次第ハ中を児神とし左を大己貴命とし右を
皇産靈等と為るハ左右相換れとれ児神と云事同じ
きを其下ハ素戔嗚等と御書せるれ其御児神ハ御在
し坐ハ故なこれり素戔嗚等ハ別ハ出雲井於神社大月

次相嘗新嘗と有り是ふり橋本経亮説に今按社是ふり祭神素戔嗚等に坐す井、於と申すに治東祇園社尾張津島社も同神にて共に井、止に社を建たりふりと云ふに如し傳十二巻六十八丁に祇園社の御事を云ふを考合す可し　備式文に云ふ二座なれども右の元暦奏上記吉懐記の趣にて三座ふり然るに鴨神餌記に御祖　大神宮中日女大神左神日本磐余彦尊右高皇産靈神客御前大巳貴命と有て神餌を等る事現に右の如く又鴨氏人記に本宮左神日本磐余彦天皇中姫大神右高皇産靈等客御前大巳貴命と見えて合せて四柱ふに坐せども本宮に三神を侍せて一座と祀り給ひて客御前を共に御祖神社二座ふる者なり右の

日女大神とも姫大神とも作りに止に謂ゆる素戔嗚等の児神に御在に坐て玉依姫命なり即是別雷神の御祖にして宗像の三女神を合せ奉る御名なり由上二百十に詳るに如し八幡宮相殿なる比賣大神御在に坐る其元に神名式に豊前国宇佐郡八幡大菩薩宇佐宮名神大比賣神社名神大帯姫廟神社名神と有り其比賣神の神代より鎮坐す地に後に応神天皇神功皇后を合祭りて八幡三所と成奉る事傳十八五十六丁に云ふに如し延式に石清水八幡宮三座式外三所内男体女体二神功皇后玉依姫と有を神社本紀に石清水中応神天皇

（今り又下四百三十二行ふり）
安藝国安藝郡から八幡別宮と三女神とし又玉依八幡宮と八幡別宮同神と云事の見えた

（又下四百三十三行ふり）
同国賀茂郡神社宗像三女神を祀る古文書建武年中の古文書に其とし濱宮御祖社と有なと思合す可

東神功皇后西三女神云ニ三女神御璽宝剣也本殿拜
次第拜中西東（新善法寺如）又拜中東西田中坊善法寺如又是傳東於
玉依姫三女神傳故也と見え又近江国武佐八幡社傳ふ
中央応神天皇左息長帯姫并右田心姫命瀛津島姫命
市杵島姫命又三神号玉依姫命と有之又を以て右の
日女大神を玉依姫命とし中奉り来る御事を明らむ
可き者ふり（又三女神の御身を合せて一柱と成しせ
し御事ハ已ふ上ふ述たるを以て晩る可し）借又御祖神ハ〻し右ふ云る如
く別雷神の御母神ふ御在し坐す謂ふる事混ふ方無
くふい布けふを皇祖の意ふ取成し云ふぐい悉ふ強

たる者ふり神名式の次第先別雷神社を挙け次ふ此
御祖神社を被載たるハ即其御祖神ふ御在し坐す事
申す迄更ふり然れハ別雷神の御父大己貴命ハ
御母玉依姫命を又ふい主と尉奉れるふて其夫神ふ
ハ坐せとも大己貴命ハ客神ふ渡らせ給ふ事又社号
を以て叨らむ可くふむ有ける右（ふ云る如）く又御祖神を
ハ玉依姫命とも姫大神とも申奉れるふ後の物ふか
ら神佛冥応編ふ中宮大己貴神下宮宗像姫神せと有
ハ後人の更ふ思寄るまゝき事ふれハ傳兼る所ふ有
可く又右（三百五十四丁）ふ註る如く松尾神社ハ曽形中都大

神大山咋神を祀奉れる御社なるか元久元年三月五日左弁官下松尾社と有る古文書に當社者鴨御祖社之御同體と有るど正しき證と為べき文なる者なり然れば松尾神祖二座に賀茂御祖神社賀茂別雷神社を一に合せ祭れる御祖なて其御祖神は胷形中都大神に渡らせ給ひ別雷神は大山咋神に御在し坐て事代主神に渡らせ給ふ事右に註る事共を合せ鑑て曉る可くなるべし有りける但吠御祖神社は玉依姫命大乙貴命二座に御在し坐せとし高皇産靈尊神日本磐余彦天皇二柱を共に合祭るる事今現に然う然れとも御祖神と申すは皇祖神の謂なり非ず別雷神の御母なる御在し坐す由なる又山城風土記に御祖多し須玉依媛命と有は建角身命の御女な

て片国神の御祖なて同名異神なり其委しき事は傳十 巻神武天皇二年御記の下に云ひを待ぬなり

○神名式に山城国宇治郡宇治彼方神社鍬風土記に兎道郡宇治遠方神社宗像神也雄略天皇三年始奉主田加神禮と有る是なう吠宇治彼方と云は大和国の京なうし時宇治川を界として川の南西を吠方とし其東北を彼方と云ひて今京なう云時は其遠吠遠へうと為る旧称を改しれざるなり川に然云例は出雲神賀詞に彼方餝古川岸吠方餝古川岸と見えたるに加し或説に宇治橋東なる离宮八幡なうと云るに実に然る可し

宇治を内の心と取成し

を八幡大神と称奉れるも此宗像大神の靈威を蒙奉
らせ給へるか起れる事申すも更なれども此八幡
の本宮と御在し坐す宇佐宮ハ此三女神を本として
祀奉れるか起れるゆへ実か此大神の鎮坐す彼方神社
即八幡宮なる可き事（傳十八六十小云るを合ゼ見るべき）なり百錦抄か宇治爾
宮明神授一階と有ハ此御神の御事なり山城名跡志
か爾宮八幡在橋寺南二町許鳥居（西向）木柱 拝殿（向午未）宮
四所祭八幡三所（四石間水）と有れば中志神天皇左神功皇
后右三女神なして謂ゆる宗像神か御在し坐なり又同
書か若宮在同所東山下所祭譽田天皇御子菟道稚郎

子也と有り又此地ハ上古菟道稚郎子の御所なり故
爾宮と称すと云るい然れ有ぬ可き事なり（今此爾宮の地を彼方町と云り）又神社考詳節か成云義平手中藤原忠文
伐平将門巡覧不行因怒死其霊即宇治爾宮神也と有（或）
る其ハ今大宮と号て別か一社有れば此彼方神社か非ず○山城国式外愛宕郡八
坂郷祇園社の攝社か美御前（ミヲマエ）と申す御在し坐
す神祇拾遺か美女御前三女神也と見え神社啓蒙
か社家流云素戔嗚尊所生之三女神也と有り社記
か美御前三座田心姫命湍津姫命市寸島姫命也と有
ハ宜しけれども是本社金徳の神たるか依て水徳の
三女神を以て相生せむが為か祭なりと云るい例の

拾遺愚草か徳
方や宝けきを道か
雪降りて係夜重
ふる宇治の稲妻天
木集か彼方や都
の辰巳雑三と見ハ
木の実実姫の三
つむ云る詠るハ
此地なり

土金家の每說ハ一て云ハ足らず事ふり本社素戔
嗚等ハ御在ー坐す且ハ其長女ハ坐す吹神を何でる
吹ハ祭りれ給いぎ〻ゝも備美御前と云ハ三御前と申
す事ふりゝむを三を美の字音ハ換たるゝ西轉ー
て宇都久志と訓い事ハ成り又後ハ三轉りて美女の
字をも用ふるハい至れりけるゝ　摂社の中ハ相光
天王と申すハ五
十猛命大屋津姫命抓津姫命を祭り後見殿と申すハ
大己貴命ハ御在ー坐ふど何れも素戔嗚等の御子神
ハ坐を殊ハ大己貴命又ハい御夫婦の御間ハ渡らせ給
いれば並御在ー坐べき理ふり美御前社在本殿東西
向と云ひ相光天王社在幷殿東傍西向と見え後見殿
在本殿民間南向と云り但後見殿ハ御摩乳手摩乳神
と云説ハ有れハ大己貴命ハ具二神を合祭れるハハ
布べー
宝剣出現章ハ吾兒宮首者即御摩乳

手摩乳也と有
を思合す可し○又市姫社と申す有り古左右京職ハ
属て東市司西市司と云有て貨財器用弼布の類を交
易する所ハて有ーふり次ハ引る金光寺縁起ハ制院左大臣冬
嗣公の忌立ハ依て東西布市司ハ市姫神を崇奉る由ハ云
ふい卫三百四十七丁ハ註せる小一條第宗像大神の起原ハ
相同ト き事ふり名跡志ハ市中山金光寺中略市姫社在
堂北西面當時開基義平年中空也上人市姫の神勅を得
て所開ふり以茱師佛為本尊今の茱師是ふり地ハ彼
社地故ハ市中山と号す又市屋道場と称す昔大内の
在ー時諸品を商ふ所ハーて其方境大ふり市場在洛

城東西其司職を市正と云ふ是即百官の一員ふり奴所い東市の地ふて七條の北堀河の西ふり其市場ふ所祭ふり」略と云ヵ奴言の如くふりば已く市司ふル寺を建たりし者ふう但右の市姫の神託を得て菜師佛を本尊と為る由ふ云ふい其市杵島姫命の夫神ふ大己貴神ふ坐て即菜師神ふ渡りせ給へば相共ふ斎りれ御在し坐す事を乞給へるを例の佛ふ取成し偽たるふ小ふ布べき又同書ふ当寺住職毎歳四月朔日松尾神の祭所ふ向ひて再拜修法を成す是即松尾神空也上人の法徳を称美し給ひし由縁ふり」と有れども

松尾大神何ゞ空也ヶ法徳ふ印可し給ふ事有む思ふふ四月上申い松尾神社の祭日ふり當社市姫神い其市杵島姫命ロ神ふ御在し坐せば松尾本社の祭日ふ其祭所ふ向ひて拝祭せし古式の寺家ふ傳いれるふ就て熟る妄言をハ設たる者ふる可し職員令ふ東市司正一人掌下財貨交易器物眞偽度豊軽重賣買估價禁奢非違事上と有れば古ふい市正ふり人其祭祀を心住生れるを後ふ市司い廃れて亡ふう寺家い興りて陰えければ主僧ふど市正の擬ひを成して松尾神社の祭日ふ修法い行へりけひを空せヶ山城志ふ市姫神祠在六條北事ふ係て云傳ふるふり富小路金光寺界内旧在七條北堀河西市町金光寺縁起文曰東市屋市姫大明神三座延暦十四年五月七日

贈相国冬嗣公、宗像大神ヲ東西市ニ因号ニ市姫ニ昔時分晩五旬之後買餞於祠前例也事見ニ山槐記ニ有リ以テ宗像大神を市場ニ祭奉れるかい市姫神と称奉れるを知べし賴家ニ集ル市姫の神の斎垣の如何ニ れば高い物ハ千代を積ムと布を薦監草ハ引て市姫といい市場ハ祝したる神の車ハ「と見えたり安芸国佐伯郡伊都伎島神社名神の（六月十七日の大）祭礼ハ諸国ニ高賈の輩輻湊して大ハ交易の市を成せる其宮島市と云て人この利潤ハ抱いる事ハれどハ其ハ分らハ神事の如く成れるハ以大神を市姫神と申奉る所由

（備此市ハ物と物と相換る事なりと以思ハ小天照大神と素盞嗚尊と物根と相換取せ給して最初ハ奉ら せ給ハる神なりと以て市神と祀ハるなり又傳十七ハ十ハ小三る如く此大神ハ黄金と司ハらせ御在坐て而一有れば今世の如く貨財を主として用ハる事と成て猶齋ハ可き神ハ御在ハ坐ハり其時世ハ随て考ずハ有ハるべず又

（奉次ハ以法將八坂瓊之曲可以授予矣如此約束共相換取と有る下ハ傳十七ハ十ハ小三る事共多合ず）

（中倉稲魂命左素嗚尊右大市姫命なり）

小縁る事を知べし然れば交易を成し互市を通ハす事ハ於て受張て斎奉る可き神ハ唯宗像大神ハ御在ハ坐ハる（第二書ハ是時天照太神謂素戔嗚尊曰以吉祥之物授之知今當△）紀国神社録と云物ハ名草群市姫大明神在楠見荘宮村所祭嚴島神と有ル右ハ云る事共ハ合ハ又諸国ハ市神社と申す奴彼有ル右の市姫神ハ御在ハ坐て宗像大神ハ渡ハ給ハ御事申すル更ハ御事ハ又紀伊国名草郡図會ハ那賀郡大市姫神社祀命攝神大和大明神社祀神大国御魂神と有ル本殿三座ハ稲荷神社の祀神命の御在ハ坐ハて振社ハ大国御魂神坐す事疑ハ可ハ故号ハ大市姫命ハ大山祇命の御女ハ生を市の大ハ々ハ辰て ハ非ずハて同ト命ハ市姫命ハ生を市の大ハ々ハ辰て然冠て申せるハ右の名草郡の市姫大明神と申ハ別

神の如く成れる為り可し其大国御魂神と申すは大
巳貴神の荒魂を坐せば市姫神なる宗像大神を申有
り然れば右の相殿二坐は後に祀る所にして其神を
大山祇神の御女なると居候へつる所為と見えた
り予嘉永三年九月若狭国三方郡阿原市村なる伊藤
信前の許を訪たりし時其地に市姫神社と云有を見
たりき今思へば其れ市姫神
を例の祭れる者なりけり○神名式に大和国葛上郡
鴨都味波八重事代主命神社二座並名神大月次相嘗新嘗有り通
證に今一座を神屋楯比賣命に當たるべ甚亘し其は
古事記に大国主神に娶神屋楯比賣命生子事代主神
と有て出自詳らざると地神本紀に大巳貴神娶坐下
辺都宮高津姫神生一男一女児都味歯八重事代主神
妹高照光姫大神命と有を合せて高津姫神と同神に

○日本書紀傳十九

○三百六十七

る事知らる然れば此御祖神と御子神と共に相並び
御在し坐て其御子神の方を主と成し奉らるゝ事右
に云る松尾神社と同神同例なる者なり賀茂に云る別雷神社の
主と御在し坐に就て別に御祖神社の立や給へるは
亦此に同じき事を復うて上に右の両社の御事を云
るに考合すべき者なり偖具神屋楯比賣命と申奉るは如何なる
実ぞと云に神の称辞なり屋楯は屋建にて宮造の御
事に因れる御名なる可し其は出雲風土記に神門郡
高岸郷所造天下大神御子阿遅須枳高日子命甚晝夜
哭坐仍其処高屋造而坐之即建高橋而登降養奉故云
高岸と云事に有を思合すべし其味耜高彦根命事代

（ふり）斯ハ同郡八野御須佐能袁命ノ子八野若日女命坐之時ニ造天下大神大穴持命將娶給為而令言故云八野ニ有ル座ヲ造テ住セ給ヘルヨリテ座主若姫ト申ス義ナリ事猶下四百小述ル以知ベシ共小須勢理毘賣命ノ示名ナリ

主命同神なる事固より論を待ず次に右の高照光姫大神命下照姫命同神なる由已二百三十四丁に云るが如し

同記に同郡多伎郷所造天下大神之御子阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之故云多吉と有る其神を内山眞龍説に下照姫命なる由云るハ然るに就て其名義を考るに阿陀加夜努志ハ大高屋主にて多伎と（高屋ハ高重屋ニ近ラムカ）（高城の義なる可くもあらず）ハ御祖の高津姫命の高と同じきを出雲神賀詞に賀夜奈流美命と申せる其ハ高屋在女命と申す事ニて共に其ハ以ル御祖神屋楯比賣命なる出たる神名なる者なるべし（共神社なる由未を知ずに共に小須勢理毘賣命の示名なり）

小註に奉れる所に云べし（宝鈔）○又式に同郡高鴨阿治須岐詫彦根命神社四座（並名神大月次相嘗新嘗）と有る此四座の中に児神と申奉るハ此京像大神に坐事上（二百三十八丁）に委く註せるが如く其ハ元暦奏上記に又三百五十九丁に欽明天皇二十八年四月（中旬）自（下）大和葛木鴨逢日村社本所祭三座児神皇児神以味耜高彦根命陪之地依神宣迁山代別雷山遺味耜高彦根命（忍穂耳等）止葛木鴨吾勝尊共児神至祭於山代以皇児神祭（下社）上社以児神（素戔嗚等）祭下社と有を児神を先に奉る素戔嗚尊の御事と思へ（ハ）ども後に熟考れば素戔嗚尊の児神と申す事にて此時の

御誓ふ依て成出させ御在ー坐す五男三女神共ふ天照太神素戔嗚尊二柱ふ相係たる御子ふハ坐せど其男御子ハ日神の御子として天統を所知者すが故ふ坎を皇兒神と称奉り次ふ女御子ハ素戔嗚尊の御子として授け降ー給へれば坎を以て唯ふ兒神と耳申做へりー者と所見なり右三百五十八下ふも註せる如く賀茂御祖神社ふハ坎姫大神を主として斎奉る所由を思合せて曉る可くふむ有ける右の四座の御事を今具記ふ就て思ふふ一ハ兒神ふて坎姫大神ふ授ら給して味耜高彦根命の御祖ふ坐ー二ハ皇兒神ふ御在ー坐て御父大国主神と共ふ坎国土を避て奉らせ給へる神ふ坐故ふ右の二神ふ陪従奉らせ給へりー者ふり三ハ坎社の主と坐す味耜高彦根命ふ坐す事申すも更ふり具四ハ下照姫命ふ御在ー坐らども思しらども具ハ地神本紀ふ坐ー倭国葛上郡雲梯社と有て神名式ふ大倉比賣神社一名雲梯社と見えたる是ふり故后神ふや御在すらむ又ハ下照姫命ふ未考ふ

○又同式同国高市郡飛鳥坐神社四座並名神大月次相嘗新嘗社説ふ所祭事代主命建御名方命高照姫命下照姫命四座ふりと亟ふ上二百十八下ふ辭云ふが如く（日本紀ふハ）高照姫命と下照姫命とを別神ふ奉なれど古事記ふ高比賣命亦名下光比賣命と見えたるが如くふて亦名ふる事著明ければ日本紀ふ大己貴神娶坐ー辺都宮高津姫神生ー一男一女兒都味歯八重事代主神と有れば其御祖高津姫神を然傳へ誤れる者

ふ多可し上か葬なを如く賀茂松尾ハ更ふり大和め
鴨つてル高鴨かてル事代主神の御在し坐ア所とだ
ふ云へハ其御祖宗像大神の並び鎮坐ア例ふりを思
合せしハ其思ひ半ふ過ふむう〳〵出雲神賀詞ふ賀夜奈流美命能御魂手
飛鳥乃神奈備ふ坐と有ハ此神社め事ふり此ふてハ
下照姫命を然称申せるふり其由縁祝詞編笑ふ云れ
ハ今云ふ限ふ非ず○又同式ふ同郡飛鳥川上坐宇須多伎比賣
命神社有り大和志ふ今在稲渕村称宇佐宮と云り此
ふ因て思ふふ宇須ハ宇佐め音を通ハし云るふて同
じ事ふ多可し神社考詳節ふ豊前宇佐明神海津姫命
八幡鎮坐者後世之事也と云事の有ふ依て思ふふ右

の宇須ハ宇佐ふ轉ふて多吉比賣ハ海津姫命の略ふ
多事決き者ふう田事紀ふ高津姫神と有ふど共ふ同
じきを思ふ可くふむ（類聚三代格貞観十六年六月廿八日大政官符ふ飛鳥神之畜天
太玉紀龍賀屋鳴比女四社と有て三社ふふ飛鳥坐
神社とを合せたを敷ふ可し但其畜と有ハ本社を
祖として云ふて神の眷畜ふる由ふハ非ず偖此御社
飛鳥の河原ふる稲渕村の上方ふ在て炎の木を繁さ
じて甚神こしき所ふ立せ御在し坐て甚と御隆え坐
こを賀屋鳴比女神社ハ其ふ〳〵一町許下ふる怪しき
寺の側ふ少ふふる小祠ふ有ふ無りふ立て御在し
坐ふい心若しき今以を葛神と申せるハ如何ふる事
ふ○大和國式外ふ宗像神社猶四所御在し坐り大和
志ふ吉野郡宗像神祠有三座一座在川上荘下多古村
琵琶山孤峰峻拔流水分遠山之下西南有二懸泉一名

廣大瀑高三十餘丈一名中瀑高十五丈許一座在舟川
莊中井傍ニ村共沼田原中峰共奈祀一座在十二村莊
柞原村共中土平川共奈祀倶称辯財天と有り其奈未
る由諸今以を知べからずと雖も宗像神祠と申奉る
古名を以て傳はる所全く田社なるが為なるなり今右
の三社共に辯財天と申す事は安藝国伊都岐島神社
を始め各国に在ゆる世大神の御社を勝申し敬へる
宗像神社と申す古名に絶て辯財天社にて傳れるも
多ければ然る心得又吉野郡に宗像大神の大社有り
て尋奉る可きなり
俗に天川辯財天と申す大和志に在坪内村天川莊
二十一村相共祭祀正殿拜殿御厨所十二小祠四面怪

石三所清泉城内在寺号曰琵琶山白飯寺妙音院下略
有り神名式に当郡大名持御魂神社名神大月次相嘗新嘗有り
又金峯神社名神大月次相嘗新嘗御在し坐す其ハ必彦名命を
祀奉れるなれば其御所縁に就て此に鎮坐なるなれを式社
に漏給へるなむ不足す口惜しき事なりける同書に
祝部十八家専幹神事と見えたれども社僧の下風
に立て今ハ皆農民の如く成れり此社今ハ本山当山
両流の修験者大峯
に入る時の行場と云者と成れり僧舎三宇有り理性
院神福寺未迎院と云ふ其未迎院を一に御所坊と
云い建武の頃護良親王の寓居しゝ御在し坐し所ふ
る故なりと云ふ予幼く大峯に詣ける時に参て拜奉
れる事有き今ハ拜に思えされども山深く水流り
水底清く実に世俗離れたる佳境なる物なり宮殿の

故思ふに此宗像の中津島より勧請なるべし
なれば天川と云地名も
彼島の天河に本着
たる称なる事傳十七
社に云ると考合べし
備前金峯の中なる
に此神の鎮坐す事
に黄金と掌給ふ由
縁有に依れり因是
を中に云ると見て知べ
きなり

清く麗しき事又世ふ○和泉国摠国風土記ふ和泉郡
譬しへ無くあむ有る上神郷有神号上神社所祭田心姫命也と有り但和名
抄郷名ふ上神加無都と有て大鳥郡ふりを後ふ和泉
郡ふ收れりふこと然れども社名を上神社と云て所
祭い宗像神ふりを不審しき事ふり大物主神と並坐
て其郷内ふ鎮り御在せるふふ備件社式文ふ引合ふ
所無きハ式外の田社と聞えたり和泉志ふ上神今曰
ふり備名国ふ大神と社と宗像神社と二社
並び也御在し坐す例多くり次ふ云を見よ○摂津国
式社の相殿ふ御在し坐す二所式外ふて一社有ふり
一ハ住吉一ハ廣田両社ふり其住吉神社四座の御事

ハ一ハ傳十三百九十丁ふ已ふ註せり如く表筒男中筒男
底筒男三神ふ後ふ神功皇后を合せ祭りて四座ふり
を二十二社註式の一説ふ社家説云住吉社四座茅一
天照太神茅二宇佐明神茅三底筒男中筒男表筒男為二一座茅四神功
皇后也と見えて神社考鉦節ふ所載し右ふ同じきを
唯諸神記ふ住吉社家説茅一天照太神茅二須波大明
神茅三住吉大明神茅四宇佐大明神と有て少りの異
りハ有れども四座の中ふ宇佐大神の御在し坐す事
違いざりハ必無しとハ云べりくず宇佐宮ふてハ田
心姫命湍津姫命市杵島姫命三神を侃せて玉依姫命

と称奉りて一座として祀奉る例なるが如く相叶へる事なり坏任吉神社は坏三女神の御在し坐す所由は
神功皇后の征韓の御時に当りて各と共に
具御軍を助奉らせ給ふ神なり故なり又武庫郡廣田神社名神大月次相嘗新嘗は
傳十三百二十九丁に註せるが如く天照太神の荒魂は御在
し坐て橿賢木嚴之御魂天疎向津媛命は渡らせ給へ
り注式に或説云廣田者天照太神之荒魂也可謂神宮
御同体如式文者一座也現在五社也と見え諸神紀に
右は同体なりと有て一殿任吉二殿廣田三殿八幡四殿松尾南宮五殿
八神祖と見えたる具第二殿は御在し坐す謂ゆる天照
太神の荒魂は御在し坐て廣田大神は坐とける儲

是ず意は[illegible]

と云ふ右の尾張大国霊神社なり集説に国府宮
宮村称国衙庄摠社本州国府宮也と有るは又大
御霊神社を同書に国府宮別宮也大和国大和神社同
神大国霊大御霊角玉称国府宮三所と有り斯れば坏
宗形神社も共に国府宮也と有るは遠江国總国風土記に許倉神社仁
祀はれ給へり
德天皇二年甲戌五月所祭玉依姫也と有は海神の御
女なるは有べからず濱名郡弥和山神社大神神社
御在し坐ふに由有て聞ゆれば神名式に許部
神社と作り但姓氏録右京神別下天孫に子部火明命
五世孫建力米命之後也と所見なれば坏
の許部も其例なるべし知べからず式
鍾倉郡江島三社は古くより弁財天女と申せれば坏
宗像大神にて御在し坐けり我友小泉保敬が見せ

たりし社傳ふ大已貴命與久延彦命合力経営相摸江島安藝嚴島駿河御嶽と有ハ金華山ふ傳ふる所ハ右ふ粗同トス雖ル久延彦命ハ少彦名命を然訛れる者ふる可し所祭天照太神分魂冨主姫命と云ハ後ふ称奉れる御名ふる可を其ハ下三百九十一丁ふ云ふを合セ見る可きふう東鑑ふ暦徳天皇建保四年丙子正月十三日己巳相摸国江島明神託宣有て大海忽変して道路と成る以ふ依て参詣の人船の煙ひ無し未代希有の神変ふう将軍実朝ふ其霊験を感ゝて三浦左衛門尉義村御使ヲ以て其地ふ向ふ鎌倉中の緇素群聚を成

其茅三殿ふる八幡ハ（別の八幡大神）ふ御在し坐べし其茅四殿を松尾南宮と見えたるハ注式の文を正し見るふ松尾大山咋神南宮嚴嶋明神（宗像明神）と云事ふて山城の松尾神社の有の任ふ勸請れるふり又其嚴島明神の下ふ宗像明神と有ハ其松尾の南宮ふる嚴島明神ハ即宗像明神ふて御在し坐と云意を以て記せるふゝめぞ書様の拙きふ肖ふ重りて見ゆる者ふか猶以御社の御事神功皇后御紀の傳ふ注し奉る可を宗像大神の御在し坐す田ふ就て以ふ云のゝふり（俗又諸神記ふる右ふ引る注式と同文を記して如式文者一座也今現在五社也後人之勸請ヲと有れとも皇帝記抄）

ふ四條天皇嘉録二年十月二十七日廣田社五所御体以下火事と見えたれハ其ハ遥ふ古より生座ふうつくめどゝ宮ゝ被祭ゝ所一、座ふりしふり又式外宗像神祠豊島郡平尾村ふ御在ー坐す此ハ三百三十四丁ふ云ゝ多が如く雄略天皇九年御紀ふ遣元河内直香賜與来女祠胸方神下略と有ゝ其壇所ふりし処ふるふゝ今定め云難ー○東海道の式社ふハ多ゝ神名式ふ尾張国中島郡宗形神社御在ー坐す当郡大神ニ社名神大生ー又尾張大国霊神社大御霊神社ふど坐し由有ゝ事ふり本国神名帳ふ従二位宗形天神と見ゆ天野信景が参考本国神名帳集説ふ今国府宮別宮也俗称角玉社是也と云り

丁巳の祭祀是ゝり始れりと云れハ古ハ今の如く陸ゝハ嶺ゝず て洋中ふる孤島ふりー者ふり今本宮立宮下宮ゝて三所有ハ各三女神の處を別ふして鎮ゝ御在ー坐ふる可しー此社関東ふてハ実ふ比無く霊験御在ー坐ゞ故ふ大ふ栄えゝ給へり然れどゝ北條時政此社ふ祈て大ふ出身せるハ若くハ霊中ふ住へりし龍神ふゞふ助ゝれたるふゝ天陽を助け奉ゝせ給ふ此大神何でゝ朝廷を衰ろへしめ奉れる曲土を寄給ふい時政ハ恐ゝ奸曲ふる奴ふれハ人を味方ふ引入ふる方便ふ神験の事を云觸ゝたるが後世ふ実事の如く傳ハれゝ有べし如何ふれ信ゞ難く疑ハしき事共ふり因ふ云ふ近世里隠の潮音と云妖僧ゝ著せゝ先代旧事本紀と云ふ妄書ふれ右ふ引ゝ此の社傳ふ本就て長しく妄言せり我子等よ必ゝ思ハ誤ゝる事勿ゝ可き者ふり　又安房国摂国

△三十七東京元年鹽之祭所祭

△此達良郡（郷ハ下四百十七丁ホ云フ如ク和名抄郡名ノ陸奥國安達ヲ安多和と有る事なれと古く安田多良と云て彼安積郡飯豊和気神社なりとを何多ゝ雷明神と申し同郡ホ此宗像神社二所御在し坐ハ若くハ此達良ゝり移しゝ也給ふなるし上達良の義なるをや傳三十卷五十丁見る可し

△下総國千葉郡寒川神社御在し坐す事右の相模國なるべし今寒川村の屋敷寒川新田と云ふ

八幡宗像明神社

天皇二年庚寅行幸

八幡を宗像明神也と云ふ山城国宇治彼方神社ハ宗像神なるを胥宮八幡と申奉るが如し此宗像の姫大神ハしも八幡三所の一ホ御在し坐て謂ゆる玉依姫命なる事

△又神名式ホ常陸国眞壁郡大国玉神社常陸国

右ホ云るが如し

廿七社鎮座記と云物ホ在り武蔵国

村祭神二座東為男体宮大国玉命西為女体宮祀活玉依媛命と有ハ夫婦相並び御在し坐るなり右ホ引る尾張大国霊神社宗形神社相並び給へる也以思ふホ右の活玉依媛命ハ唯玉依姫命なて宗像大神なて渡

ハ立て給ひて今ハ神明と称し奉り此神霊験著明御在ス笠して无礼と成ハ大ル忠給ひて今ハ神明也死ル至る者多し其眷族の右の目ホ離の如き者其家ヲ焼ること如く見えて甚畏き御事なりと云ハ

△又鹿島郡子生村ノ子生神天と申す宗像大神（旧社御在し坐て安き著明守し給ふ著明き霊験御在坐と云り事も吉ホ六年五月出羽ル物為る時詣奉りたりき）

ハ也給ふ可き御事申すル更ホ崇神天皇七年御記ホ天皇問大田ト根子曰汝其誰子對曰父曰大物主大神母曰活玉依媛陶津耳之女と有れども其活玉依媛ホ聚給へり一ハ実ホ一ハ事代主神ホ御在し坐す事宝鏡出現章ホ有り○又神名式ホ近江国滋賀郡日吉神社名神大と有る其七社の中ホ三宮と申す御在し坐り二十二社注式ホ引る扶桑明月集ホ三宮女形桓武天皇延暦六年丁卯八王子金大巌傍天降天照太神與素戔嗚尊誓給所生五男三女中三女也故名三宮と見えヨ吉神道秘密記ホル女形三体依三女之影響奉称三宮と有り大宮ハ大比叡神大己貴命二宮ハ小比叡神事代主命ホ御在し坐せば上件

賀茂松尾等の例に准じて必鎮め御在し坐つ可き
御事ふるい有けり（此日吉神社の事は聖真子の御事に紀て上に百四十丁に云る
を以る宝劔出現章第六一書）
事代主神の傳ふるべきふり又同国蒲生郡に謂る
胸肩の瀛津島神中津島神邊津島神三社御在し坐す
其一は神名式に奥津島神社（名神大）清和天皇實録に貞
觀元年正月廿七日甲申奉授近江国従五位下奥津島
神従五位上と有る是ふり其所在は万葉十一に（又祥淡海之奥津島山云と）
海奥島山奥儲吾倉妹事繁と見え紫式部家集に水海
に沖津島と云が洲崎に向て（下略）沖津島守の神や在
すらむ浪に驚かぬ童部の浦と云る所にて今は沖

（但古は野洲郡に属せしかしまの国七年の下に四月一日に十元興寺僧傳燈法師伝賢知恵言久住に近江国野洲郡奥島に御構堂舎島中堂に告曰昔の神霊に玉鹿高宮に鎮坐の神力将に福日成敬崇護国家に所存郡邑に崇為神宮寺に神明願記許べと有り當時僧使の元年に今代未狀を学ぶ者の元所まり是所を去すして貴戦賢愚共に妖りそしが如く中者に併に重く或然へやしらが然る妖言に信じて新に神宮寺を許建給へるなり如此妖僧の心を懸る就て古に重く禁給可しとのみ）

島と云まり其に同郡大島神社和名抄に大島郷有り
武佐八幡宮社傳に武佐八幡比年禮社在瀛津島所謂
大島神社是也俗呼曰八幡所祭中央應神天皇左息長
帯姫尊右田心姫命瀛津島姫命市杵島姫命此三神号
玉依姫命と有り傳十七（七十）に云如く胷形の中瀛を
大島と云る事考合す可し其三は宇佐山八幡宮是ふ
り此に式外にて八幡本記に近江国法花峯八幡宮蒲
生郡八幡村に在り祭る所石清水に同じと見えたり
神社考詳節に宇佐明神湍津姫命八幡鎮座者後世之
事也と有が如く三女神を合せ祭る中にて七宇佐に

てハ湍津姫命と主と立る事なり斯れば右の三社の中ニ奥津島神社ハ田心姫命大島神社ハ市杵島姫命宇佐山八幡宮ハ湍津姫命ニ此同一郡の内ニ宗像三神共ニ鎮り御在し坐す事奇しと云べし其子細上二百五十丁ニ天穂日命ニ馬見岡神社の下ニ云り考合ス可き事共なり右の八幡の古名宇佐山と云し事ハ近頃或者の記ニ真書大宮記と云物ニ見えたり八幡本記ニ社記を引て一條天皇御宇此所ニ奉遷と云るハ上代より宇佐大神の御在し坐す地ニ應神天皇神功皇后等を合ヒて其名清水と同じく祀れるなるべし

○又式ニ近江国淺井郡都久夫須麻神社有り此をも俗ニ竹生島辯財天と申せれば宗像大神の若くハ御在し坐故ニハ非るか

也然れども日吉神道秘密記岩瀧社條ニ女形竹生島辯財天是也蹈鞴姫也事代主命大己貴命御子御娘神武天皇后也とも有れば別神ニ御在し坐ニや今定む可らざれども俗ニも安藝の厳島と此島と相模の江島とを日本三辯天と云事有ニ依て今序ニ云のミなり右の岩瀧と申すハ日吉山王二十一社の一なり注式ニも百瀧社を蹈鞴姫命と有り然れども竹生島ニ持込む事ハ如何有む其意を難得し實ニハ竹生島縁起と云書ニ大日本根子彦太瓊尊孝霊天皇五年乙未湖水湧而此島顕出也此御宇霊速彦尊生三児気吹雄命坂田姫命浅井姫命天降坐豊葦原水穂国箇中気吹雄命坂田

姫命二神下座淡海国坂田郡之東方浅井姫命下座浅井郡之北遣麦浅井姫命與気吹雄命競勢争力更奔北遣下坐海中其下海音云都布都布故云都布夫島即件神凝水沫而為磐積風莖而化島又召諸魚令持重石今云魚崎魚集之處也又召諸鳥令落殖草木種今猶衆鳥來集之窠也と有り此事色葉字類抄に載て竹生島在近江国此島坐神依中臣奏上件神奉授従五位上勲八等背浅井姫命與気吹雄命云々と書出て下右に同ト帝王編年記に載たれども此と趣同ト云々ず其文に云く霜速比古命之男多々美比古命是謂夷服岳神也々此依志比古命是夷服岳神之姪在浅井岡也

是夷服岳與浅井岳相競長高浅井岡一夜増高夷服怒抜刀斬殺浅井姫之頸隨江中而成江島名竹生島其頸子と見えたり此に夷服岳も浅井岳も共に岳名にて其殺と云ふ山を仆す事にて頸と云ひ頸と云も山嶺を云るゆゑ又字類抄に見えたる神階の事い同記に天平神護元年竹生島明神授従五位上誅恵美大臣之時合力之故也と有に是なり

但右の孝霊天皇二十五年に湖水港而此島顕出也と有て其時霜速比古命の天降給ひし由なれども其神の降坐しい神代の事なるに竹生島の出現い實に其時なるけむも知でなるず但此に異説有る事なるに皇年代略記に或云孝霊天皇第五年近江国水海港始て見え皇代紀肯書に孝霊天皇五年近江湖水始港冨士山初出て見えたれども成務

本朝通鑑に孝霊天皇五年近江国地并湖水港而冨士山出と有り又

公故ヲ難知キヲ評
第三世傳景行天皇
十年近江湖中竹生
島始現出ヒ有リハ
其ヲ島ノ現出ヲ云
フ者

天皇十年庚辰近州湖中竹生島初出ヒ有リハ此島の
成出たる年数合ざるゆえ竹生島縁起ニ古老ノ傳云
浅井姫命今号地主人皇十三代雄足彦尊号成務天皇御宇件神
現島乾ヒ見えたるを以考るに右ハ其神を祀祭リ
事を島の初出たるヨ混へたる者なり又神社考ニハ
竹生島者在江水湖水其巖石多水精宝珠本朝五奇異
之一也傳言孝霊天皇四年江州地折湖水始湛駿州富
士山忽出焉景行天皇十年湖水初涌出云ヒ有リ此ヨ
湖水初涌出ヒ有ハ島の涌出たる事ふくめども然云
ざるゆえ右の如くハ神社考ニハ孝霊天皇四年甲
戌なり本朝通鑑皇代紀皇年代略記等ニハ

ハ神社本記ノハ竹生嶋
三女神ヒ見ヨ此ヒ明
らかなり然るを

ハ同五年乙亥なり縁起ニハ同二十五年乙未ハ
今何リにても定め云難し富士山出現の事ヒ論有る事
なり別ヨ云べし竹生島出現ハ孝霊天皇二十五年ふ
るを其地主浅井姫命を祀リるハ景行天皇十年庚辰
ヨ成務天皇十年庚辰ノ同ト庚辰の干支なるヨ依て一ハ混へるなり　右の如くなる時
ハ都久夫須麻神社ハ宗像大神ヨハ坐ざるが如くふ
リにても浅井姫命を別ヨ地主神として祀へるを以思
ふヨ世俗ヨ辯財天ヒ云ヒ空しくくざる事なて實ヨ
ハ宗像大神を齋奉リるヨこそ有べくなりけれ又事代
主命の御女姫踏鞴五十鈴姫命ヒ其島ヨ祐在し坐ふ
る可き事右の日吉社記ニ以知べし神社啓蒙ヨ祭神
一座宇賀御魂命素戔嗚尊御子也　改暦雑事云景行天皇治十

五年淡海国湖中竹生島出聖武天皇天平三年辛未竹生島神顕形と有り異説多り西行が撰集抄に音字多御門に頃都良香と云ふ琵琶ひき轉士侍りけり四月の頃江州竹生島に人と伴ひ連て参りける遠に山山顕に上りて御社に至りぬ四方見え渡りて賢に面白き所ふり斯れが都良香三十世界現前畫と作り詠ぜりける神殿鬱しく動ぎて殊に大に気高き御声まて十二因縁心裏空と云御句に人耳に鮮かに聞え侍ける略と見え又源平盛衰記に平經正此島に渡り神明法楽の御為に一曲を彈ぜむ仙童の琵琶取出ふむやと宣へば安き御事なりとて僧琵琶を抱きて經正の前に翳く經正掻寄せ給ひて樂二三彈じて後に上玄石上と云ふ秘曲を彈じ給ふ諸僧耳を欹てい感涙袖をしぼりけり天女納受し給ひて社壇に上より白狐出来て庭上に遊びて經正の方を守りけるこそ不思議なれ經正琵琶を置きて神明の化現と奈く思給ひけれが所願成就疑ひ無し和光利物の夏夜思ひ立ける嬉しさよ千早振る神に祈れば叶へば白くし色の顕れまけりとて詠じ給へる略と有り然れば啓蒙に此白狐の事ふるに依て稲荷の宇賀御魂命と同じく思取な

る僻事を記せるなる可し曾形の瀛津島なりしい時と
無く音楽の聲聞え安厳と厳島なりし音楽を以て神
事と為る事釋氏の妙音天の混合せる事なるべし實な
好せ給ふ所なる事著明き者なり　右の仙童の琵琶
節なる一説云行基菩薩建立辨財天女化現此神好音樂
と云ふ神社考詳
故名妙音天女南都僧仲等有童子云毎年三月十八日
近江国竹生島有神仙之會戒亦預烏童求等琵琶去等
迴之到竹生島時琵琶自雲中落于仲等船中等惆悵而
飯年經正彈琵琶于此島時白狐現社壇と見えたり此事
釋書仲等が傳なる出なり此行基菩薩建立と云ふ右の
啓蒙の天平三年辛未竹生島神顕形と有と一事と南
白ふ已く行基が其神地を掃めて佛刹を建なるを
云なる可し　○神名式なる美濃国多藝郡多伎神社大神社
と相並べる多伎神社い宗像大神なる坐なる可し其い

彼国の事書なる百莖根と云物なる在大墳村此村古称正阿久村
一伝三宮護法大菩薩と有を以知るなり三宮と云
ふ一宮二宮なる謂なり非ず日吉の如く三女神を祀ふ
なる就て三宮とり申せるなる可し（大菩薩を顕現名義抄なる美女也と有なる考奇と上なる註なる大和国高
市郡飛鳥川上坐宇須多吉比賣命神社なる思准らひて
覧なる可し（き者なり）嵩郡を多藝と云とい事同しなるなる者ふ
右の百莖根い一名美濃明細記と云て元文三戊午
年伊藤實臣著と有なる書なり出雲風土記神門郡多
伎郷條なる阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之故云多吉
神亀三年改字多岐と有が如く多伎吉をしし多吉と
約云ふ小が湍津姫命なる湍津を約めて此を
多伎としも何ぞなるい云ふなる事の有む　○又式なる信
濃国埴科郡玉依比賣命神社土人云松代の内東條村

る在り今池田宮と云ふ神体明玉なり又神宝る青紅
白三種の明珠数百顆有り皆子を生なり其子る成べ
き物粒こと付たるが別れて小玉と成り漸こ大きく
成れり何れも透徹りて甚こ美はしき玉なり曲玉も
自然る出来る物なて且て人作とは見えず其外種こ
奇しき事有り」と云り但安房郡穂高神社名神大更級郡
氷鉈斗賣神社など有る御由緑る因れば海神の御女
なるとも思はれども又水内郡美和神社伊豆毛神
社小縣郡生嶋足嶋神社名神大御在し坐せば此玉依比
賣神ハ宗像の三女神なて渡らせ給ふらむと今序

ムテ其ハ傳ホ巻五ノ小注ニアルガ如ク此三女神ニテ渡ラセ給ヒシテ別ルモハ右ニ云

る云なり猶熟考ふ可き事なるむ有ける又神名式る
郡玉祖神社和名抄郷名る玉祖多末乃於世と云て有て
古事記る謂ける玉祖命なり然る河内国摠国風土
記る玉祖荘玉祖神社所柔玉依比咩也云こと有を同
式る阿波国名方郡天石門別豊玉比賣神社と云も有
が如く玉祖命ハ女神る御在し坐は其ハ玉依比
賣命と申す御名御在し坐むと知れども右る云は
如く神体なる神宝なるも明珠なる事考ふ可し
とも宗像神社許多御在し坐

○上野国る式社なハ非れ
西郡従四位下胸形明神有り又丹樂郡る従一位宗岐
明神と有る岐字なれども形る通ハし書なるる可し
同郡従五位上億津宮明神群馬郡正五位上息津宮明
神群馬西郡従三位上息津宮明神と見えたる此三社

小決く瀛津島姫命を御在し坐り又縁野郡從四位下
水沼明神群馬西郡正五位上水沼明神と有り此の第
三一書に即以日神所生王女神（中略）此筑紫水沼君等祭
神是也と有れば此も右に同じ偖斯る遠境に此神の
御社多く御在し坐す事い若くい上（三百三十三丁）に引る履
仲天皇御紀に五年春三月戊午朔於筑紫所居三神見
于宮中言何奪我民矣吾今斷汝於是禱而不祠（中略）或者
曰車持君行於筑紫國而悉技車持部兼取充神者必是
罪矣（中略）と有る車持君い豊城命の御子孫にして上毛
野氏同祖なり又群馬郡群馬西郡と云る車持の本貫

なれば其御祭を治奉る由にて右の如く所ゝに祭奉
れるなるべくや（姓氏錄左京皇別下に車持公上毛野
君之後也雄略天皇御世供進乘輿仍賜姓車持公と見
え摂津国皇別に車持公上毛野朝臣同祖豊城入彦命八世孫射狹
君之後也と有を思合すべし又い崇神天皇四十八年御紀に天皇勅豊
城命活目尊曰汝等二子慈愛共齊不知昌為嗣各宜夢
朕以夢占之（中略）兄豊城命以夢辭奏于天皇曰自登御諸
山向東而八廻弄槍八廻擊刀（中略）以豊城命令治東是上
毛野君下毛野君之始祖也と有る右の御諸山い大三
輪山の事なり此遠事なれ其神の定めさせ給ふ所な
し有ければ齋奉らせ給てると見えて神名式に山田

（公神名帳ニ丹根郡従三位大社明神ト有ハ杵築大社ニテ大国主大神ニ生テ昭形大神ニ夫神ナリ猶神名）

郡美和神社御在し坐し又賀茂神社御在し坐し其御
子神なるを御祖の身形大神に坐せば大に所以有り
此に就て神名帳に大奈知明神（従三位）少奈知明神と有ハ大
己貴命少彦名命二柱なるを可く又式に佐伯郡大国神
社有を神名帳にハ従一位大国玉大明神と見えたれ
ハ其荒魂なり又群馬郡正五位上大国玉明神那波郡（従三位）
国玉明神と有も同神なるを可く丹楽郡従五位上佐伯
明神と有も異神なハ有べからず大倭神社註進状に
傳聞狭丹神者大己貴命之荒魂大国魂神即當社別社
也と有を以知べし右の賀茂神社ハ神名帳に従一位

（頭注ニ大山咋神ト云フ）

加茂大明神と見え又従三位加茂明神と見えて事代
主命に御在し坐を同郡従四位上磯部明神と云有り姓
氏録左京神別下地祇に石邊公大物主命男久斯賀多命之後
也と有に是なり但大物主命男と云有れども地神本
紀なるに事代主命の子なり又群馬郡小西郡に正五
位上大丹明神と有も（丹波国桑田郡）大丹神ハ松尾同体と云傳有り
又邑楽郡従五位上長柄明神と有ハ姓氏録大和国神（別地祇）
に長柄首天乃八重事代主神之後也と見え勢多郡従
五位上白河明神ハ陸奥国白河郡郡に古和気神社（名神）
大と頭註に味耜高彦根命と有に思合す可し碓氷郡

従四位上若国玉明神い天孫降臨章ゑ下照姫を亦名
高姫亦名稚国玉と有ゑ合ひ又神名式ゑ那波郡倭文
神社を神名帳ゑ従一位倭文大明神と記せるゑ国幡
国高草郡ゑ倭文神社有ゑ頭注ゑ下照姫命と有を
も思合ゑ可し又群馬西郡従三位諏訪若御子明神い
建御名方命ゑの新田郡正五位上阿波明神い事代主
命ゑ右阿波咩命ゑ坐べく群馬西郡従三位新渠明神
い後右溝機姫命ゑる可きゑるど如此く大国主神宗像
神ゑり始て其御親族ゑ神等ゑ打揃ひて然御在し坐
い右ゑ豊城命ゑ所由ゑ限ゑず甚ゑ上れる神代

ゑの事ゑど有べき又此事い次ゑ云ふ下野国ゑ神
社ゑも係て心得べき事ゑり備
此い宗像神社ゑ御事を説明くめ奉る所ゑる要無
き伝神ゑ上を云如く思ふくむ人も有ゑむゑ上世ゑ
い今世ゑ如く己が心ゑ向たる神を勧請ゑて齋く如
き事い且ても無ゑし事共ゑて其国土経営ゑ神と云
ゑる然くても其国の掌持て治ゑる人ゑ又い其祖神と云
ゑり皆其地ゑ斎ゑる可き限ゑ神を祀ゑるゑ此ゑも
彼ゑも繋がゑる事有ゑる物ゑれば心ゑ及ぶ限ゑ其傍證
として取べき限ゑ事い引出て合せ見ずば有べゑゑ
ざるが
故ゑり ○神名式ゑ下野国寒川郡駒形神社或者云
く網戸村思川と云ふ川傍ゑ坐ゑ思川い古く田心川
と云所ゑりしを何時ゑ程ゑり一字ゑして思川と呼
ぶ事と成ゑりと云ゑり實ゑ駒形神社い田心姫命を始
て三女神を祀奉ゑる所ゑし有ければ田心川と云名ゑ

有ハ古き御社なる證なり又寒川村と云所まて式外まて駒形神社御在ー坐と云るも由有る事なり式ま相模国高座郡寒川神社名神大と有を一宮記ま八幡宮なる由書せるハ此ま引合て相叶てる事共なり其も寒川八幡とり申せとも實ハ宇佐神まて此駒形神ま御在ー坐す事此ま至て明らむるま足れりと云べし又式ま都賀郡大神社式社考ま在穂社村大己貴命と云ひ同郡大前神社考ま在大前村大宮持命と云ひ芳賀郡大前神社考ま在大前村大己貴命と云り那須郡温泉神社ハ湯本村ま在り三和神社ハ三輪村ま在りの右ま社ー何れも駒形神社の御由緒なくなりハ非りける又河内郡二荒山神社名神大ハ二荒山ま神霊を祀奉れる所まて謂なる宇都宮

○又真都賀郡ニ梅檜神社有と一記ハ出雲風土記ハ謂ゆる真玉著玉之邑日女命なりとなるハ然ラス言なり傳世卷六十四ニ詳ニすべし

是なり一宮記ま味耜高彦根命て有ハ如し然れども冨士神を麓なる浅間神社まて被祭ると同ト事まて本社ハ右ま二荒山ま御在ー坐す事右ま社号を以知べし今此を日光三社と申して本宮をハ與宇都宮同体味耜高彦根命と傳へ新宮を大己貴命瀧尾を田心姫命と傳へたる是なり此山主ハ右ま如く味耜高彦根命ま坐故ま二荒山神と申して本宮まハ祀奉れるなり大己貴命ハ後ま奈良所なるま伝て新宮と申すまて有べく瀧尾も真本宮の御祖神なる為ま祭られし御在ー坐まて賀茂ま御祖神社相尾の駒形中都大神

の例なり少くと雖ども所無くあむ御在し坐ける又寂定を下照
姫命と申せり右の如く古く二荒山と云ける音を音
呼び習ひて日光と云る其ハ佳字を被用たるなるを
此日光の字に就て説を成すハ例の佛者の妄言なるを
を天下の人此を信ずるとして二荒山の古名を廃るなる
む胸痛き事なりけり○陸奥国牡鹿郡大島神社桃生郡計仙麻
大島神社式に見えたり此二社ハ身形の中瀛神を祀
ハるなる可き事上に近江国蒲生郡大島神社の傳に
云を合せ見て曉る可し右の牡鹿郡なるハ今本吉郡
に在て云り桃生郡なるハ觀跡聞老志に本吉郡気仙
計仙麻乃今気仙沼地又云本吉郡釜前湾以此地称気
仙沼焉延喜式文徳天皇實録所称気仙府是也哈又云

公清和天皇實録貞觀元年正月廿七日奉授陸奥国從五位下計仙麻大島神從五位上と有り

大島神社在気仙沼海上周廻五六里白銀盤上一青螺
也鳴洞東北二里余上有叢祠土人云島明神是古之大
島神社是也牡鹿郡今屬本吉其山曰亀崎と云り但此
ならい右の牡鹿郡なるを説に似て紛ハしい牡鹿ハ
桃生を誤ハるなり猶尋ぬ可き事なり又右の計仙麻
大島村に在とも云り又和名抄に気仙郡大島郷有り大島神社を今
會津郡大島郷有りて云る然る地名に就ても故由有
べるなむを今詳なるす○神名式に陸奥国小田郡黄金山神社續紀十七
十四丁に天平廿一年二月丁巳陸奥国始貢黄金於是奉
幣以告畿内七道諸社と有る此時なるべし祀り奉初給
ひけるし同四月丁未改天平二十一年為天平感宝元

年と有る事を因て御世號を改させ御在し坐しふ
り此より前は甲午朔詔有り万葉十八 二十 賀陸奥國
出金詔書歌は須賣呂伎能神乃美許等能御代可佐祢
天乃日嗣等之良志久流伎美能御代ゝゝ之伎麻世流
四方国乃波山河乎比呂美安都美等多豆麻豆流御調
宝波可蘓信衣受都久之毛可祢部之加禮騰母吾大王
能毛呂比登乎伊射奈比多麻比善事乎波自米多麻比
豆久我祢可毛多能之気久安良年登於母保之豆之多
奈夜麻須乃鶏鳴東国能美知乃久乃小田在山乃金有
等麻宇之多麻敬禮御心乎安吉良米多麻比天地乃神

△文續紀之直ハ天平勝宝元年閏五月甲辰陸奥國出金山神王小田郡日下部深淵授外従五位下と有り是なり

安比宇豆奈比皇御祖乃御靈多須気豆遠代乃可ゝ里
之許登乎聞食御世乃安良波之豆安禮婆御食国波左可
延年物能等可年奈我於毛保之賣之豆略と見えたる
が如し倭仲哀天皇八年御紀の神託は愈此国而有宝
国譬如美女之眼有向津国眼炎之金銀彩色多在其国
是謂拷衾新羅国焉若能登吾者則曾不血又其国心服
兵と見えたる如く古は此国は黄金と云物無り
し故は新羅を御奴国として今貢給へりしを後は
帰順ひ参来ざりしかば皇神等の神議を以て皇国の
山ゝより如此く出し給ふ事と成れる後は彼は黄金

と云物絶て出ず成ぬるハ彼と此と相通ひて後々良
ハしらるざる事の有るを為る其初ハ求させ給へる
物なれども此る多くハ出し給ひて然る煩を止めさせ
給へるまゝ有べき然るまゝ此黄金山より始て出
来る事上三百二十九丁に云る如く宗像大神の韓征の御
事を甚く祐奉らせ給へる所以の本着て甚尊しと申
さむも中にあるる御事なるべし　其時の詔詞の中に此
来る黄金波人国用理献言波有登毛斯国乎波無物止
念部流仁宜者食国中能東方陸奥国守従五位上百濟
王敬福伊部内小田郡仁黄金出在奏豆献と有り陸奥
国より出せる黄金を出す其宜え高きを伝て漢籍宋史
百九十九巻に東奥州産黄金西別島出白銀倭此黄
以為貢賦と云事有り西別島とハ對馬嶋を云

金山を右に万葉に小田在山と有るを後に其金の
山る山あるを以て黄金山とハ称ふ事まハ成ぬるを
めり又其短歌に須賣呂伎能御代佐可延等阿頭麻奈
流美知能久夜麻乎金花佐久と有が名高く成て後世
金華山と云名も出来りしるる可し　小田郡ハ觀跡南
老志に桜小田郡地乃牡鹿遠島是也後従之牡鹿郡其
證見于光俊陸奥山歌同皆古之小田地也と有が如し
又同書に牡鹿郡陸奥山今称金華山中略其山高峻突元
高八十丈島回三十二里山形五峯蜜山六十八西溪南
亦四十八谷山頂之天女堂中略舊説曰開闢之始三輪明

内閣文庫
内閣文庫

神以四橋築之鍊黄金造此巨島天照太神分魂冨主姫（鎮座）
今所謂天女祠是也と見えたり然れども此説（先代）舊事本
紀と云ふ安書の説に似たれば甚疑しと雖も此を強
て助け云ハゞ金華山神社も然る社傳の有つるを取
て然る説を成せりと云むゝ冨主姫と申す御名も然
り上三百七十四丁に云るを考合す可し其ハ其（先代）舊事本紀と
云ふ安書に大己貴
命與久延彦命幸奥共議聚金煉成磐石之於国邊海中
而為維宇国橋此島春秋美咲金花と有り今此を少少
離め云時ハ大己貴命と久彦名命と二神こゝろに相共
に幸行と為つ可りけれ久延彦命と云事心得ず又
国を維く橋を立給へる事も且て他に聞えざる言ふ
り又春秋咲金花と云るも右の万葉歌に依て儒作た
るまて入笑へるる事共なり然れども然似通ひたる
事も世まに有る物なれば今ハ後人の定を待るむ

十五ノ八
春一葉校合　大江長陵

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan